



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

9/2.26 No. 3356

当局の妨害はねのけ 12Hストを貫徹

ストを断固 うちはぬく

動労千葉は、二月二十五日正午をもって、九一・三ダイ改合理化粉碎・業務移管粉砕第一波ストライキに突入した。ストライキは、津田沼・千葉転・館山・勝浦・銚子の全本線乗務員を対象に、整然かつ断固としてうちぬかれ、列車に多数の運休がでるなど、JR当局に大きな打撃を与えた。

団交で解決 する気なし

今次ダイ改闘争は、習志野運輸区設置という津田沼支部破壊攻撃を狙った業務移管攻撃とともに、労働条件をめぐる闘いでもある。ダイ改のたびに厳しくなる乗務員の労働条件、一方でダイ改のたびに少なくとも高年齢者の職場、こうしたものは一刻の猶予もならない切迫した事態の中で、動労千葉は、乗務員の仕業の緩和、高齢者の職場の確保を要求の柱にしほりあげてきた。

トップ交渉 をも拒否

さらに千葉支社は、動労千葉の局面打開にむけたトップ交渉の申し入れ(申第十九号、二月二十四日)に対しても拒否をするなど、交渉によるスト回避を放棄するものであった。

要求実現へ 更に闘おう

きた。この後におよんでも、明日の勤務の準備まで妨害しようとする千葉支社の何と硬直した姿か。昨年の三月ストの時は、午前零時から乗務員を宿泊所から追い出そうとしたが、今度は零時まで立ち入りを許さないというのだ。ここにも安全をかえりみないJRの姿がよく現れている。動労千葉からの強い抗議によって、この事態は回避されたが、一事が万事、JR東日本当局の国鉄以上の官僚主義と硬直化は行きつくところまで行きついたといえる。JR総連革マルと結託することで、もはやぬきさしならないところまでおいこまれたのが、今のJRだ。

千葉動労、総武線などで乗務員スト
千葉動労(中野洋委員長、組合員七百五十人)は二十五日正午から、千葉県内のJR総武線、内・外房線などで十二時間の乗務員ストに突入した。

同労組は①組合員を津田沼運輸区から排除する配置転換計画の撤回②三月十九日開通の東京―成田空港間特急「成田エクスプレス」の千葉駅停車などを求めて

ストを報じる 毎日新聞(夕刊) 2/25

いる。このストで、正午以降発車の同県内JR各線は、内房線館山―安房鴨川間と鹿島線の全区間がすべて運休するほか、内・外房線が通常の五割減、総武線と成田線が二割減、東金線が八割減の運転となる。さらに「あすさ33号」と「しおさい7号」を除く内・外房線総武線、成田線の特急電車が全部運休。JR千葉支社は、影響人員は五万九千人にのぼるとみている。

さらに夕刻に「立ち上り」交渉がはじまるや、千葉支社は今度は、「二四時までストを行っている」ので、施設内に立ち入ることはできない」と二四時まで庁舎内への立ち入りを拒否しようとして